

インフルエンザ定点（小児科定点を含む）

インフルエンザ： 191件（前月比 17.4、前年比 2.3）でした。前月比が著明に増加しており、例年通りに今後も増加するものと推測されます。前年比も 2.3と増加しており、大流行した昨年を上回る勢いであることから、今後の発生動向に特に注意が必要です。定点当たり届出数が1未満なのは熊本(0.5)、天草(0.7)、水俣(0.3)、御船(0.0)でした。有明(11.3)、宇城(5.7)が特に多いようです。

※（ ）書きは1ヶ月の報告数を定点数で割った値。以下同じ。

小児科定点

（全体傾向）

5,782件（前月比 1.0、前年比 1.2）であり、感染性胃腸炎3,988件が大きく占めています。前月比、前年比とも大きな変化はないようです。インフルエンザ（前月比 17.4、前年比 2.3）が著しく増加しています。流行性耳下腺炎、伝染性紅斑は例年より少ないようです。

（疾患別傾向）

1. RSウイルス感染症： 214件（前月比 1.0、前年比 0.6）と9月をピークとして、以後は連続して減少しましたが、11月からは横ばいの状況です。8月、9月、10月は例年より著明に高い値で推移していましたが、12月は例年より少ない値となっています。今後は徐々に減少していくものと推測されます。水俣(13.5)、八代(10.5)が多いようです。
2. 咽頭結膜熱： 144件（前月比 0.9、前年比 2.8）でした。8月をピークとし、10月には一旦減少しましたが、再び11月に大きく増加に転じていました。12月は前月比0.9であり、大きな変化はないようです。昨年よりは大きな値で推移しています。菊池(11.5)が多いようです。
3. A群溶レン菌咽頭炎： 281件（前月比 1.0、前年比 0.7）でした。5月をピークとして、以後は9月まで連続して減少しており、その後は11月までは連続して増加に転じています。前月比は1.0であり、11月からは横ばいです。菊池(15.0)が特に多いようです。前年よりはやや少ないようです。
4. 感染性胃腸炎： 3,988件（前月比 0.9、前年比 1.6）でした。11月に大きなピークがあり、12月は大きな変化はありませんでした。今後は例年通りに減少していく可能性が高いと推測されます。昨年よりは高い値で推移しているようです。山鹿(155.0)、有明(133.0)、天草(106.5)が特に多いようです。
5. 水痘： 415件（前月比 1.3、前年比 1.1）でした。平成24年は例年並に7月から10月にかけて少ない値で推移していましたが、11月からは連続して増加しています。八代(20.8)、宇城(14.7)、菊池(11.8)が特に多いようです。
6. 手足口病： 156件（前月比 1.1、前年比 15.6）でした。昨年は夏季におおきなピークがありましたが、平成24年は夏季にピークを迎えることなく低い値で推移し、11月、12月は夏季よりも多い値で推移しています。そのため前年比15.6と相対的に大きな増加となっています。有明(11.2)が特に多いようです。

7. 伝染性紅斑： 1件（前月比 0.3、前年比—）でした。平成24年は大きなピークを認めることなく、例年より低い値で推移しており、12月も大きな変化はありませんでした。
8. 突発性発しん： 156件（前月比 0.8、前年比 0.8）。前月比、前年比とも大きな変化はなく、例年と同様に推移しているようです。
9. 百日咳： 0件（前月比—、前年比—）と少ない値で推移しています。
10. ヘルパンギーナ： 22件（前月比 0.5、前年比 1.2）でした。例年通りに7月をピークとして連続して減少しています。
11. 流行性耳下腺炎： 56件（前月比 0.8、前年比 0.2）でした。平成24年は6月からは例年より明らかに少ない値で推移しているようです。7月からは連続して減少しています。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎： 報告はありません。
2. 流行性角結膜炎： 報告数 63件(前月比 0.9、前年同月 0.9)と目立つ増減はありません。地区別では熊本 55件、菊池 3件、有明 1件、宇城 2件、天草 2件の報告です。年齢別では 30歳代をピークに 10～60歳代までに多く発症しています。

STD定点

1. 性器クラミジア感染症：報告数 26件(前月比 0.5、前年比 1.0)でした。前月比では減少していましたが、前年同月比ではほぼ同数でした。男女別は、女性が 20件と多く見られています。年齢別は、女性は 20～29歳に 12件と多く、男性では 20～59歳に見られています。地区別は、熊本が 18件と圧倒的に多く、次いで宇城、御船各 3件、八代、有明に各 1件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症：
報告数 20件(前月比 1.1、前年比 1.5)でした。前月比、前年同月比とも増加しています。男女別は、女性が 17件と多く、年齢別では、女性は 20～70歳以上、男性でも 25～70歳と幅広く見られています。地域別は、熊本が 11件と圧倒的に多く、次いで八代 7件、御船、宇城に各 1件でした。
3. 尖圭コンジローマ：報告数は 6件(前月比 0.9、前年比 1.5)でした。前月比では減少していましたが、前年同月比では増加しています。男女別は、男性に 5件と多く見られています。年齢別は、男性では 15～44歳に、女性では 45～49歳に見られています。地区別は、宇城 5件、熊本 1件でした。
4. 淋菌感染症： 報告数は 10件(前月比 0.8、前年比 0.6)でした。前月比、前年同月比とも減少しています。男女別は、男性に 7件と多く見られています。年齢別は、男性は 15～69歳に、

女性では 20～34歳に見られています。地区別は、熊本 8件、宇城 2件でした。

基幹定点

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎： 報告数 0件 (前月比 -1、前年同月比 -3) でした。
2. 無菌性髄膜炎： 報告数 3件 (前月比 1.0、前年同月比 1.5) でした。
3. マイコプラズマ肺炎： 報告数 8件 (前月比 0.3、前年同月比 0.2) でした。ようやく減少しました。
4. クラミジア肺炎： 報告数 2件 (前月比 +2、前年同月比 +2) でした。

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：
報告数 17件 (前月比 1.1、前年同月比 0.2) でした。16件 (94%) が 70歳以上でした。昨年10月より減少傾向が続いています。
2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：
報告数 3件 (前月比 0.4、前年同月比 0.6) でした。
3. 薬剤耐性緑膿菌感染症：
報告数 0件 (前月比 -1、前年同月比 -1) でした。
4. 薬剤耐性アシネトバクター感染症：
報告数 0件 (前月比 ±0、前年同月比 ±0) でした。

届け出対象感染症

- 1類感染症： 報告はありませんでした。
- 2類感染症： 結核：27件
- 3類感染症： 腸管出血性大腸菌感染症：3件
- 4類感染症： つつが虫病：6件
日本紅斑熱：3件
レジオネラ症：2件
- 5類感染症 (全数把握)： アメーバ赤痢：2件
後天性免疫不全症候群：1件